

経済の動き*

【全体感】

東北地域の景気は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動向をみると、公共投資は震災復旧関連工事を主体に高水準で推移しているほか、設備投資は緩やかに増加している。個人消費は底堅く推移している。住宅投資は高水準ながらも震災復興需要がピークアウトしているため減少に転じつつある。生産は緩やかな増加基調にある。こうした中、雇用・所得環境をみると、労働需給は改善を続けており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回って推移している。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、震災復旧関連工事を主体に高水準で推移している。

8月の公共工事請負金額は、前年を下回った。

設備投資は、緩やかに増加している。

6月短観（東北地区）における2017年度の設備投資は、製造業を中心に省力化投資や能力増強投資などがみられており、前年度を上回る計画となっている。

個人消費は、底堅く推移している。

主要小売業販売額の7月の売上高は、前年を上回った。耐久消費財をみると、7月の乗用車販売および家電販売額は前年を上回った。

住宅投資は、高水準ながらも震災復興需要がピークアウトしているため減少に転じつつある。

7月の新設住宅着工戸数を利用関係別にみると、分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家で前年を下回った。

* 直近の金融経済統計および企業ヒアリングをもとに、東北地区6県（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）の金融経済情勢を取り纏め。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかな増加基調にある。

主要業種別にみると、輸送機械は、高水準の生産を続けている。はん用・生産用・業務用機械は、外需の好調等を背景に増加している。電子部品・デバイスは、持ち直している。情報通信機械等は、国内向けを中心に弱めの動きが続いている。この間、食料品等は、販路の喪失や人手不足から低調な動きとなっている。

3. 雇用・所得

雇用・所得環境をみると、労働需給は改善を続けており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、件数は前年を上回ったものの、負債総額は前年を下回った。

6. 金融情勢

預金動向をみると、個人・法人が前年を上回って推移していることから、全体でも前年を上回った。

貸出動向をみると、個人向け、法人向けの増加を背景に全体でも前年を上回った。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行仙台支店営業課 TEL：022-214-3120
